



春に学習会、秋は巡検、露頭で地震活動分かる仕組みも＝ジオパーク支援委

JpGUで歴史地震の学習会

春のJpGUは、日本中のジオパーク関係者が集まって、新規認定申請地域のプレゼン審査などが行われます。ジオパーク支援委では、この機会を生かし、昨年のJGPUから各地のジオパークの専門員らを対象に、「ジオパーク活動で使える地震学」と題した学習会を開催しています。

2018年は、5月20日のポスターコアタイム終了後の1時間、公益財団法人地震予知総合研究振興会の松浦律子氏を講師に、「日本のジオパーク周辺の過去の被害地震」をテーマに実施。当日は9つのジオパーク(構想中含む)から13名、地震学会会員(ジオパーク支援委員会委員含む)12名の計25名の参加者がありました。

導入では、参加者にピンポン球を渡して凹ませ、プレートの運動や日本孤の形状などの理解を促し、ベテランジオガイドからも「なるほど」との声が上がっていました。

近年の地震災害と対比しながら、歴史地震と災害、復興について説明。「地元の災害教訓を知らないよそ者が被害を受ける」、「ジオパークは災害史や災害教訓の学習の場として重要」という講師からのメッセージはジオパーク関係者に重く受け止められているようでした。

2019年5月のJpGUでも、学習会の開催を予定しています。



幕張メッセで行われた地震学習会

今年は、10月12日に磐梯山ジオパークを巡検。慶長会津地震の痕跡も見て回ります。

阿蘇ジオパーク・熊本地震で現地巡検、小学生ガイドも

2017年秋季大会翌日の10月28日、ジオパーク支援委が主催し、阿蘇ユネスコ世界ジオパークと益城町教育委員会が共催して、ジオパークの巡検が行われました。

巡検には大学院生5名を含む、20代から80代までの総勢17名の学会会員が参加。8月に行われたこどもサマースクールに参加した高校生らも同行しました。



潮井水源で、小学生と一緒に記念撮影

阿蘇の中岳火口が間近にある阿蘇火山博物館で、ジオガイドから「地震の前は、断層地形について説明できていなかった」との反省の言葉を聞き、さらにカルデラ湖の決壊と神話が過去の活断層の活動と関連するのではという興味深い話も聞きました。南阿蘇村の立野では、断層トレンチを視察。阿蘇大橋を破壊した土砂災害の現場で、ジオガイドから模型なども使った分かりやすい解説を受けました。

最後に、益城町に現れた地表地震断層を3ヶ所見学しました。その後の11月に国の天然記念物への指定が答申された場所です。布田川が近くを流れる杉堂の潮井水源・潮井神社は、改築したばかりの神社の石段のズレで、断層の右横ずれの変位がよく分かります。ここでは、サマースクールに参加し「益城の大地ジュニアマイスター」という称号を持った2名の小学生が、湧水と活断層の関係の研究発表を行いました。参加していた金森博雄名誉会員から「分からないことを調べるのが面白い。頑張ってください」と励ましの言葉がありました。

横ずれが現れた麦畑では、ここで営農している若者が、「この地震を伝える語り部になる」と言いながら、説明をしてくれました。この若者に小学校の理科の授業で布田川断層を教えていたのが同教委の坂本文隆先生。昼食時には、女性の教え子が「地震後に学校で教わっていたことを思い出して落ちつくことができた」と体験談を語り、地震研究の役割の大きさを示すこととして、参加者に強い印象を残しました。



火山博で、九州の衛星写真を元に、地形の成り立ちをガイド。



立野の地形が繰り返す地震で作られて来たことをガイド。



麦畑で体験を語る教え子に傘を差し出す坂本先生。

新ジオパーク委員会への協力、8学会で

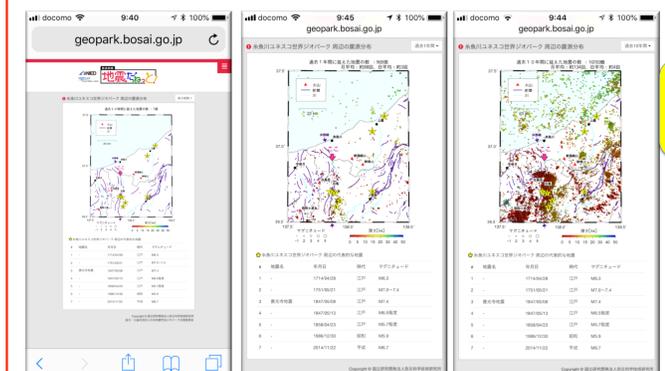
地震学会では、日本のジオパーク審査が始まった2008年から、「日本ジオパーク委員会」(JGC)に学会から委員を推薦。2017年度までは、尾池和夫名誉会員がJGC委員長を、中川和之理事がJGC委員を務めていました。

世界ジオパークが、UNESCOの正式プログラムになったことを機に、世界の作業指針に合わせて日本の審査枠組みの改組が行われ、関係学会からは審査を担う「日本ジオパーク委員会調査運営部会」(JGCR)への参画が求められ、中川理事が加わっています。JGCRへは、これまでの地震、火山、地質、地理、第四紀に加え、地形学連合、応用地質、活断層の3学会からも参画し、より幅広い視点から、認定の審査や各地のジオパーク活動の支援が行われます。

9月のJGCで「萩」がジオパークに認定され、日本ジオパークは44地域となりました。4月に世界認定を受けた「伊豆半島」を含む9地域が、ユネスコ世界ジオパークに認定されています。

断層露頭で地震活動をスマホで実感!

2017年度の学習会をきっかけに、各地のジオパークにある断層露頭などのフィールドで、準リアルタイムで周辺の地震活動をスマホで確認できる「地震だねっと!」を防災科研が構築。第1号が糸魚川のフォッサマグナパークに登場しました。今後、日本ジオパークネットワークと協定を結び、各地のジオパークで活用が見込まれます。



QRコードでログイン!



糸魚川周辺の過去1年、過去10年(自動更新)